

【十二月の言葉（令和七年）】

人間は「偉いもの」ではありません。

「尊いもの」です。

（安田理深）

”人間は何らかの条件によって尊いのではなく、能力・学歴・財産・地位・健康などの有無を超えて、何一つ付加することなきままで尊いのだ。”と教えるのが仏教です。人間は、より優れた能力をもっているから立派だということではない。持ち物や、何ができる・何ができないによって人間の価値は決まらない。「あなたは、だれとも比べることのできない尊い存在なのです」と仏さまは呼びかけてくださっています。

人間は偉いものではありません。しかし、迷い、悲しみ、時に孤独の中で自分と向き合い、仏さまの言葉を聴くことができるのもまた人間の身においてなのです。そうした人間という存在を仏教では「尊い」と教えているのです。比較することはやめられないかもしれませんが、お互い個性を認め、尊重しあうことが大切なのではないでしょうか。